

“期待”を求めなされる神

東京若枝教会主任牧師 飯塚俊雄

四百年の昔、世界一周の偉業を最初になし遂げたのは、英国人のフランシス・ドレイクです。彼について伝記記者の言うことには、自分の目前には、いつも大きな可能性の門が開かれていて、自分が偉大なる経験へと招かれているのだという強烈な意識があったのだそうです。思えば、子どもたちにも大人にも爆発的に人気のあったあのドラえもんの“どこでもドア”。だれもが冒険心をくすぐられ、楽しく別世界に魅き込まれたものです。

美しの門の足なえの男は、ペテロたちから「何かもらえると思って」見つめています。期待したのは僅かなお情けでしょう。これに対し、ペテロも「わたしにあるものを上げよう」と、主のみわざに期待しています。そう言われて男の期待感もが然アップします。そこには臨在されるイエスの御名があります。聖なる何かが起こらずにおれましようか。

天においても地上でも万権を手にしておられる主は、私たちが信仰を以て期待することを、よしとされます。

まず、自分のために神に期待すべきです。

今日の致命的と言える問題は、私たちキリスト者の自意識の低さではないでしょうか。神であるキリストが、こんな自分のために、死んで下さったほど愛して下さるのだという事実には、ふるえるほどの感動がない。乏しい。パウロは心狂わんばかりだと言うのに。まるで、あの夜、火に当たりながら女中に見とがめられ、金しぼりになったペテロのよう。「あなたもイエスと一緒にだったでしょう」。そうです、キリストの弟子なのです。光栄なことです。さりげなくそう言えるほど確かな自分になっていない。「たといそうでなくても、主よ。私たちはあなたの立てた金の像を拝みません」の毅然とした信仰。キリストが無視されているこの世に生きて、人々との違いを恐れぬ内的自由を持っていますか。

「自分の自我性にけりがつけられた時どんな

ことでも、み心にお従いする自由が与えられました」と。ある日、ある人の輝いた証言は若い私を心底揺さぶり霊の渇きを起こしました。

次に、人のために期待すべきです。

イエス様は実にそういうお方なのです。ペテロと初対面のあの日、自分の真相さえまだよく知らぬ一漁師に向って、「あなたはシモンだけど、岩にしてあげる」と。ここにシャープな現実主義者でありながら、大胆な楽天主義者でもある主イエスの雄大な志が躍如としています。「わたしは、あなたのために祈ったよ」(ルカ22:32)。何と私たちは人にも事柄にも見切りをつけやすいことか。東北の田舎町の無牧の群れの15才の少年の心にお入り下さったイエス様は、今の私にして下さいました。自分でさえこうして頂いたからには、あの人もきっと主はやって下さるはずと。私たちは人を信じてあげることで愛が育ち、信じて祈り続けることで自分が成長するのです。

最後に、キリストのために期待しよう。

ペテロは言い切ります。「わたしにはお金はない。しかし、どうしてもあなたに上げたいものがある」。ナザレのイエスの御名です。この御名こそ、私たちの究極の期待です。主はすでに私たちをご自身の栄光の花嫁として許婚して下さいます。であるとすれば、余りにもあるべき姿になり切れていない自分を、申しわけなく思うべきではないですか。

パウロもある時期、そうでした(ロマ7:15~24)。しかし、彼はその段階にいつまでもたついてはいませんでした。御霊によって貫かれ、暗雲を突き抜け、勝利し、もはや圧倒的でした(8:1~4)。私たちも大きな可能性、偉大な経験へと一人残らず招かれています。このたびの聖会で、私も心から主に期待し、みなさんのために期待し、自分のためにも期待し、及びがたきほどの高嶺に登らせてくださいと心から祈っています。

松原向先生をしのぶ

東海聖化交友会会長 松浦 剛



松原向先生が2008年3月3日に95才でご召天され、東海聖化交友会として、ご生涯の一端に触れるかたちで、しのびたい。

松原向先生（旧姓近藤）は、1930年から3年間、金城学院英文科で学ばれた。当時80名弱の生徒たちで学内礼拝を守っておられた由。ある朝、日本伝道隊理事御牧碩太郎（1870～1949）牧師が説教者として招かれて説教された時、「神様に身を献げて従う者はないか」とのアップールがあり、決断された（『みどり野—金城学院百周年文集』1989年、169～170ページ）。

その後、松原和人（1905～1966）牧師と結婚され、1941年に活けるキリスト—麦教会の開拓伝道に、牧師の妻の立場で奉仕された。

松原和人先生は日本伝道隊湊川伝道館において堀内文一（1875～194

0）牧師から受洗した日本伝道隊の信仰の流れをくむ神の器であった。

松原向先生はご主人様ご召天後、長く牧師として奉仕された。

1988年に東海聖化交友会が発足したとき、最初からこの会に加わり、この働きに会場提供も含めて多大な協力をされた。松原向先生はその聖化の信仰のゆえにご生涯は輝きと恵みに満ちていた。

ハレルヤ。



「聖言に身を委ねた時」

金沢独立キリスト教会牧師 岡田 意

昭和38年、北陸学院80周年の記念事業として、小学校を作ったが21名しか集まらなかった。次の年は13名しか入らなかった。10年以上公立の教員をしていた私は何か相談に乗れることはないかと思って番匠院長を訪ねたが、「あなたが来てくれたら何とかなるかもしれない」と言われた。イエス・キリストの名によって作られた学校が、私が行くか行かないかで潰れるかもしれない。ルカ5:1～11を読んで祈った。牧師、教会員、両親、親戚、皆反対だったが、聖書は「沖へこぎ出し」と迫ってきたので、北陸学院に行った。1年間御言葉にしがみつくようにして仕事をした。翌年は37人の入学者があった。そこで教師も増員し新たな校長を迎えた。不漁の絶望から一転豊漁の網を引き上げるために仲間の舟を呼んだペテロのような体験だった。

家内の兄の精神分裂症が癒され、それで両親も救われた。私の先生が「この3人を君に託するからこの3人のために牧師になりたまえ」と言ったので北陸学院の教師をしながら教会を始めた。日本基督教団に属していたので、教団の教会に加えて欲しいと言ったが、会堂・信徒の組織・牧師の資格といったことで断られてしまった。「北陸という仏教の金城湯池に素手で向か

ってもすぐ潰れる」と言われて教会として認めてもらえなかった。しかし主が私に対して人間を取る漁師になれと言ったので、教団には属さず、金沢独立キリスト教会とした。

7月に始めて9月に創立記念の集会の時、激しい腹痛が三日三晩続き入院した。しかし検査に耐える体力もない。空いていた伝染病棟の病室に入った。イエス様が立てとおっしゃって私は立った。体力が続かなくて死ぬが、必ず別の器が立てられて働きは続くだろう。イエス様が必ず責任を持つだろう。すべてを委ねた。主よみもとへ参ります。それで息が絶えた。意識もなくなった。気がついた時、そこは天国だと思ったら病室だった。激痛は消え呼吸は楽になっていた。イエスの命が現れるために死にさらされたのだ。イエス・キリストの教会というものはそういうものであるということ強く思わされた。

すぐ潰れると言われた教会が44年続いている。現在は平均97名の礼拝、夕礼拝と祈祷会はその半分ぐらい。みことばの驚くべき威力と、それを信じる信仰を通してそれが現れてくることを覚えさせられた。（2月25日「学びの時」）

竿代信和先生の転任にあたって

東海聖化交友会役員 関 昌宏

この春、東海聖化交友会の初代会長であられ、長い間インマヌエル名古屋教会の牧師を務めてこられた竿代信和先生が転任で名古屋を離れることとなりました。

先生はいつも役員会で貴重な方向付けをしてくださり、秋の聖化大会では名通訳として外人講師のメッセージを分かりやすく会衆に届けてくださいました。ある方曰く「信和先生が通訳すると聖会になる」とのこと。メッセージ後の応答の時まで格調高く導いてくださったのが印象的でした。また年数回の役員会、総会、そして聖化大会といつも快く会場を提供して下さったことも感謝に堪えません。

昨年20周年を迎えた東海聖化交友会ですが、今年は松原先生の召天、竿代先生の転任と大きな節目を迎えています。スピリットを正しく継承し、次代に伝えていく使命を今新たにさせられています。(エレミヤ書6:16)



報告『西田会長から松浦会長へ』

東海聖化交友会は、この会に関わる各教団からの役員によって運営されていますが、役員会の互選のもとに、隔年の総会で役職が決まります。去る2月25日の総会では、前任の西田会長が退かれて、新たに松浦剛会長が選ばれました。松浦師は、初代/竿代信和師、2代/無関正秀師、3代/小林光生師、4代/西田价宏師について第5代目の会長となりました。

西田師のリーダーシップは謙遜と穏やかなスピリットの中にも深い霊的確信に裏打ちされたもので、さらにこの会を引っ張っていただく期待がかけられていましたが、所属教団の転任(2007年3月)に伴い、このたびの交替となりました。新任の松浦師はそれまで副会長を務めてこられ、また昨年の西田師転任の後にも実質的なリーダーシップを発揮してきてくださいました。主が松浦先生を豊かに用いてくださることと期待しています。

文・書記/秋山直光

第12回 遠州聖会報告

ウェスレアン・ホーリネス教団

浜松ウェスレアン伝道所牧師 小林悦治

日 時 2008年2月17日(日)午後2:30～5:00

会 場 インマヌエル浜松キリスト教会

講 師 森 文彦師

(日本イエス・キリスト教団 垂水教会牧師)

説教題 「勝利の生涯」

聖書箇所 ローマ6:1～23

洗礼に与かることが出来た恵みを教えられました。

先生ご自身の体験と先輩諸師の証詞を交えて、きよめに生きることの素晴らしさを切々と語って下さいました。

恵みによって、尚成長させて頂きたいと願われました。

一同、時を忘れて御言に聞き入り、多くの者が、恵みの座で祈りました。この時を与えてくださった主に感謝します。

2007年度決算報告

会計 関 昌宏

収入	金額	備考	支出	金額	備考
会費	96,000	28教会32口	講師関連	119,500	謝礼,交通費,接待等
聖会献金	314,991	6月...¥182,312 10月...¥132,679	通訳者関連	42,680	
一般献金	79,000	5教会7件	JHA分担献金	71,200	会費の1/3、他の献金の1/10
記念誌献金	159,830		講師渡航費分担	24,155	
雑収入	18,600	録音テープ代金等	クリチャン新聞広告	22,000	聖化交友会協賛広告
利子	492		会場費	40,000	
			JHA全国協議会	20,000	
			会議費	59,845	
			事務通信費	56,270	
			テープ	32,061	テープ代及びその送料
			20周年記念行事	273,306	記念誌¥252,000
			慶弔費	10,000	西田会長へ感謝
小計	668,913		小計	771,017	
前年度繰越	317,583		次年度繰越	215,479	
合計	986,496		合計	986,496	

第15回

東海聖化会

テーマ「**私たちは生ける神の宮なのです**」

講師 **飯塚俊雄師**

福島県白河市出身。中学3年生の時に骨髄炎を患い、それをきっかけにしてキリスト教と出会い、信仰を持つ。

関西聖書神学校卒業。トリニティ神学大学・大学院(アメリカ・シカゴ)卒業。

郷里、白河栄光教会の開拓を経て、荻窪栄光教会にて教会堂建設に尽力。その後、現在の東京若枝教会の前身、関町福音教会を練馬区関町で始める。

現在東京若枝教会主管牧師の他、アンテオケ宣教会理事長、世界宣教研修センター校長を務め、国内だけでなく海外でも広く用いられている日本を代表する牧師の一人である。



とき

2008 6 | 28 土 2:30PM

29 日 2:30PM

ところ

活ける
キリスト

一 麦 教 会

名古屋市名東区亀の井2-102

☎ 052-701-4221

今年も例年のように6月下旬に開催されます。恵みの雨が豊かに注がれる時となることを期待しつつ、ご出席ください。(席上献金のときがあります)

東海聖化交友会

〒453-0053 名古屋市中村区中村町7-46

福音センター

☎ 書記 / 0562-97-6468

